

2025 年度後期「つくる I」 講義概要

講義タイトル：「つくる人をつくる？育てる。思いを託し、未来をつくる学校現場。」

講義担当者：徳山直（浅野中学校・高等学校教諭（理科・化学）／入試広報部長）

講義日時：2025 年 10 月 23 日



1. 講義の目的 私立中高一貫男子校教員の立場から、仕事の多面的な実態を紹介。「教科指導」に留まらない生徒を「育てる」意義、授業以外の「裏方」の仕事、「広報」の役割まで、学校現場のリアルを伝えます。未来ある若い世代に「思いを託す」教職の魅力と課題を概観します。

2. 担当講師の視点 講師は本学理工学部化学科を 2000 年に卒業後、浅野中学校・高等学校に理科（化学）教諭として勤務しています。動機は部活動や塾講師の経験に加え、「化学を活かしたい」「若い世代と関わりたい」という思いからです。生徒会顧問・教務・進学指導。生徒指導を経て現在は入試広報部長。大学時代の広報部長の経験が活かしています。



3. 講義の概要

① 学校という「場」の理解 一般的な学校機能に加え、私立学校の特色を解説します。勤務校の浅野学園を例に、創立者・浅野総一郎の生き様を表す「九転十起」の校訓が、学校文化の核となっていることを紹介します。

② 「現場」の仕事（1）：生徒を育てる

- ・ **授業**：進学校として授業を最重要視し、準備に注力しています。26 年目でも発問や ICT 活用を日々工夫し、近年の定員削減や理科実験の少人数化で、より手厚い指導を目指しています。
- ・ **生徒指導・行事**：6 年間の一貫校生活で、行事やキャリア教育を通し生徒の成長を促します。問題対応は難しい場面もありますが、「学年控室」の仕組みや教員間の連携で対応します。

③ 「現場」の仕事（2）：学校を支える「裏方」

- ・ **校務分掌**：授業以外にも「学年会」「教科会」や多岐にわたる「校務分掌」が学校運営を支えています。
- ・ **100 周年行事**：講師が実行委員長を務めた創立 100 周年行事など、学校の節目となるプロジェクト運営も教員の仕事です。



④ 「広報」の仕事と私立学校の価値

- ・ **広報の役割**：入試広報部長として、学校の魅力（男子校の多様性等）を発信します。自校のみならず、首都圏の男子校や神奈川の学校の PR にも力を入れています。
- ・ **私立学校の存在価値**：各校に異なる文化があり、近隣校はライバルかつ「仲間」です。私立学校は卒業生の「ふるさと」として、伝統や積み重ねを大切にする場でもあります。

4. 結論 教員の仕事は、多様な業務を通じ生徒と社会の未来に「思いを託す」専門職です。無理をしがちな職種ゆえ教員間の連携が欠かせません。「教員らしく」と演じず、誠実な気持ちで生徒と伴走することが望ましいと考えています。

5. 当日の質疑応答など（一部紹介。ご質問ありがとうございました。）

- ・ **私立学校の寄付金について**：浅野は寄付金を頂かない珍しい学校。近年 PR ポイントと考えるように。
- ・ **生成 AI 活用の取り組みについて**：学校では生成 AI リテラシーに関する教員・生徒の研修検討が始まったところ。講義日の前日にキックオフしました。個人情報の流出を避けるため、学校では学習機能を制限できる Gemini の利用を推奨。講師自身は生成 AI 活用に出遅れがちですが、この講義概要のたたき台の作成を Gemini でチャレンジしてみました。

6. 講義に参加して下さった皆さんへ 自分の持ち味を活かし社会とどう関わるかは、とても大切なことです。理系のみならず、世の中の仕事はそれぞれ意味をもって構成されています。学校は次世代を担う生徒さん達と接する場ですが、皆さんの学生時代の経験だけでなく、いずれご自身のお子さんを通じて再び学校と関わることもあるでしょう。社会の中で生き生きと生活することは、子どもも大人も同じく大切です。皆様のこれからの活躍をお祈りしています。